

発行 No. 69019

2021年2月8日

株式会社東陽テクニカ

東陽テクニカ、2021年9月期第1四半期決算発表 売上高は前期並み、利益は伸張 自動車向け全固体電池ビジネスが好調

(株)東陽テクニカ(8151:東京都中央区 高野俊也社長)は、本日(2021年2月8日)午後2時、TDnetにおいて2021年9月期第1四半期の決算を発表しました。

【概要】

売上高は43億6千5百万円(前年同四半期比 Δ 0.3%)、営業損失は1億2千3百万円(前年同四半期は3億2千7百万円の営業損失)、経常損失は1百万円(前年同四半期は2億8千1百万円の経常損失)、親会社株主に帰属する当期純利益は2億3千5百万円(前年同四半期は4千万円の親会社株主に帰属する四半期純損失)でした。

また、当期は中期経営計画(目標数値:売上高260億円、営業利益20億円、ROE5.0%)の最終年となります。新型コロナウイルス感染拡大(以下、「感染拡大」という。)による自粛ムードや感染再拡大の影響はありますが、期初計画及び中期経営計画を達成すべく事業を推進しています。

【売上動向】

国内売上高は40億4千3百万円(前年同四半期比 Δ 2.5%)で、海外売上高は3億2千2百万円(前年同四半期比+39.4%)でした。

セグメント別では、物性/エネルギー分野において、自動車向け全固体電池やパワーエレクトロニクスの評価システムニーズは引き続き好調であり、大型案件の出荷も順調で、売上が大幅に増加しました。

【受注動向】

受注高は66億8百万円(前年同四半期比+3.8%)でした。

セグメント別では、情報通信/情報セキュリティ分野において5G(第5世代通信システム)及びローカル5Gの領域や、ネットワークのトラフィック制御装置が伸張し受注が大幅に増加しました。また、売上同様に物性/エネルギー分野も受注が大幅に増加しております。

一方、EMC/大型アンテナ分野では、大型案件が少なかったことにより受注が大幅に減少しました。

【受注残動向】

受注残は、97億6千6百万円で前年同四半期に比べ、3億9百万円増(+3.3%)となりました。

【売上総利益率】

売上総利益率は、46.2%で前年同四半期に比べ3.3ポイント上昇し、売上総利益は20億1千5百万（前年同四半期比+7.4%）となりました。売上総利益率改善は、自社製品など利益率の高い製品ラインが好調に推移したことによります。

なお、当期(2020年10月～2020年12月)の平均為替レートは対ドルで107円(前年同四半期108円)、対ユーロで124円(前年同四半期123円)でした。

【経費】

経費は、テレワーク設備の強化費用が発生しましたが、国内外出張の減少、展示会のオンライン化促進などにより削減した結果、21億3千9百万円（前年同四半期比△2.9%）となりました。

【特別利益】

政策保有株式および債券の売却などにより、3億3千8百万円を計上しました。

【連結対象子会社】

東揚精測系統（上海）有限公司、東陽精測國際有限公司、TOYOTech LLC、PolyVirtual Corporation、北京普利科技有限公司

【2021年9月期 連結業績予想】

2021年9月期の連結業績予想を以下としております。2020年11月2日に公表いたしました連結業績予想から変更ありません。

2021年9月期 連結業績予想

売上高 250億円、営業利益 21億円、経常利益 22億円、当期純利益 15億円
配当金1株あたり年40円（うち、中間配当16円）

★ 本件に関するお問い合わせ先 ★

株式会社 東陽テクニカ

常務取締役 柏 正孝

Tel:03-3279-0771 Fax:03-3246-0645 E-Mail:toyo-ir@toyo.co.jp

※本ニュースリリースに記載されている内容は、発表日現在の情報です。製品情報、サービス内容、お問い合わせ先など、予告なく変更する可能性がありますので、あらかじめご了承ください。

※記載されている会社名および製品名などは、各社の商標または登録商標です。